
リハビリテーション天草病院だより

2021年7月

No. 99



発行 埼玉県越谷市平方343-1 / (医) 敬愛会広報委員会

今次介護報酬改定は介護崩壊を招く

医療法人敬愛会理事長 天草 大陸

この4月から実施された2021年度介護報酬改定は、0.7%のプラス改定であったと厚労省は主張しますが、改定の内容が極めて複雑で、いわゆる「加算と減算」項目が目立ちます。もし、「加算」の多くが算定できなかった場合、マイナス改定となる介護事業者が多発し、廃業に追い込まれる所も数多く出ると予想されます。改定は3年に一度しか実施されません。人件費を始め諸物価が上昇する中で、あるいは減収の可能性が高い中で、3年間も基本報酬据え置きでは我慢や経営努力にも限界があるアップ率であり改定内容です。例えば、介護老人保健施設(以下、老健という)においては経常赤字施設の割合が21.7%も存在する(2019年度)状況下での改定であり、余りにもひどすぎるのではないのでしょうか。老健に限らず他の介護事業者も経営がうまくいったとしても、年間売上高が5億円では350万円程度、5千万円では35万円程度の売上増に過ぎません。既に、経営状況が極限にきていると言われる中小零細事業者にとっては、手の打ち様がありません。国中がコロナで四苦八苦している中で、関係者や世間の風当たりが弱い、あるいは関心が向かないことを利用して、介護保険管轄の厚労省の役人が官僚的発想を存分に発揮したとしか思えません。多くの介護事業者の経営の悪化はサービス内容の劣悪化を招きます。結局は悪影響・被害を一番被るのは国民ということになります。

なぜ厚労省の担当部署の役人は介護事業者に厳しく当たるのでしょうか。私は次のよう

に考えます。

今次改定を機に、介護業界を大手と中小零細の二極分化を進め、極めて近い将来、中小零細を無くしてしまおう、大手に任せる方が低介護費政策を促進しやすいと考えたからではないのでしょうか。また、今次改定では、やたら難しい言葉が登場します。例えば、データ提出加算の中にある「L I F E」って何だか分かりますか。「科学的介護情報システム」のことだそうです。この言葉も何のことか理解するのは困難です。まさに官僚用語と言わざるを得ません。

ところで、昨年度はコロナ禍でほとんどの介護事業者の収入が激減しました。高齢者入所施設や通所系介護サービスでのクラスター(集団感染)の発生等々から「利用控え」が生じたからです。2019年度と比べて、どの程度の減収となったのかは、現時点では統計的数値が出ていませんので分かりませんが、かなりの額であったことは容易に推測できます。コロナ禍が続く本年度は、低介護報酬改定とあいまって一体どうなるのか不安は募るばかりです。ちなみに、医療費では昨年と比べて、入院は2月が5.6%減、入院外(外来等)は1月が6.6%減となりました(厚労省が6月25日発表)。おそらく、介護報酬も医療費の大幅減と同程度と思われる。

繰り返し強調致しますが、介護事業者の経営状況の悪化は、即、サービス内容の劣悪化につながります。最大の被害者は国民であると断言できます。

通所リハ(デイケア)と通所介護(デイサービス)の違いは？

リハ事業推進部 部長 古澤 浩生

デイケアとデイサービスは混同されることが多くあるのですが、実は大きな違いがあります。

デイサービスは「通所介護」と呼ばれる介護保険サービスです。日中の一定時間施設に通い、食事や入浴といった介護サービスを受け、在宅介護をしてくれている家族の負担軽減や、生活機能の維持や向上を目指すサービスといわれています。

デイケアは「通所リハビリテーション」という介護保険サービスです。日中に一定時間施設を利用する点はデイサービスと同じですが、入浴や食事といった介護サービスだけではなく、「リハビリテーションを受けること」が目的となります。

デイケアにおけるリハビリテーションは、医師の診察・体調管理のもと、身体・生活機

能を理学療法士(P T)、作業療法士(O T)、言語聴覚士(S T)、看護師といった特定の資格を有したスタッフが評価をしたうえでリハビリテーションを提供します。

当法人のシルバーケア敬愛通所リハビリテーションでは、食事、入浴サービス等の提供、理学療法士11名、作業療法士5名、言語聴覚士2名の埼玉県内では最も多い療法士数が在籍し、個別のリハビリテーションを提供しています。

リハビリテーション天草病院通所リハビリテーションでは、1時間～2時間の短時間通所リハビリテーションを展開しており、個別リハビリテーションに特化したサービスを提供しています。

2つの違いについて、分からなことがありましたら、お気軽に職員にお尋ねください。

【デイケアとデイサービスの違い】

共通するサービス

送迎・食事・入浴・レクリエーション



「リハビリテーション 天草病院にて」

越谷市 伊藤 成

今年初めより越谷市立病院にて腰部脊柱管狭窄症の手術を受けるべく入院しました。糖尿病や心臓病等の疾患があり、3月8日に手術となりました。結果は成功でしたが、排尿排便に問題が生じ、4月8日からリハビリテーション天草病院にお世話になることとなりました。入院当初の頃は2・3度程、具合が悪くなり看護師、介護士、リハビリスタッフに大変ご迷惑をお掛けしました。看護師、介護士の方々には薬の飲み方や気持ちの持ち方等、ケアをしてもらい有意義な日々を送っております。特に排便の調節には看護師・介護士の方より事細かく指導をして頂き何とか日常生活を送れるようになりました。毎日夜中にトイレに入ると必ず声をかけて励ましてくれたり具合を聞いてくれたりと感謝の限りです。新型コロナウイルスの流行により毎日精神的にストレスなどを感じる時に優しい心遣いで心配して頂いて有難かったです。更に、リハビリスタッフも厳しくも優しく接してもらい筋力のつけ方や正しい歩行の仕方など色々教えて頂き1ヶ月余りで好きなゴルフ等もできる位に歩けるようになり、スタッフと一緒に行きませんか？と軽口をきけるようになり感激の限りです。きついリハビリの後にはマッサージやクールダウンなどをしてもらい快適な毎日を送っています。退院も近づきリハビリテーション天草病院の職員の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

(投稿日 令和3年6月5日)

「リハビリテーション 天草病院の日々」

越谷市 坂本 雅子

令和3年2月4日、越谷市立病院からリハビリテーション天草病院へと直接転院。直ぐに無休のリハビリが始まりました。初日に「どこが一番困っていますか？」との問い。「聴く」ことから始まる治療に驚きました。これまでの体験で「どこに困っているか。治したいか聞かれたことはあるだろうか？」と。治療方針や病状説明は聞いたことはあったが、どうなりたいかと聞かれたことはなかった。リハビリって何だろう。諸々の疑問や思いが頭の中を巡り、こうして私はリハビリと出会いました。それは「こうして共に治しましょう」のメッセージとなり回復に向かう大きな力にもなりました。

リハビリ治療は、行う人が自分の身体を使い専門力を駆使していき受け手はそれを身体・心でも受け止める。それは、自分の身体の声を知ることにつながる。身体が人によって良くなりたいたいという声も知ることになる。自分の思いが、身体と心と一体となった。

今まで自分の心の声に耳を傾けてきたが身体の声も聴き大切にしたい。77歳で病を得た中で、初めて身心の声聞いた。そして、自らの生き方について考え新しい人生の選択や価値観の見つめ直しもあった。人が人と共に取り戻していく治療。リハビリは、生きていく力の尊さも治す中で知らされた。あとどれ位生きるのか不明であるのが、新しいことに深い意味がある。

3月、時は春。道の草花は花咲き、実をむすび、生命を誇らしげにする。新しい日々が始まる。

(投稿日 令和3年3月16日)

「社会復帰への希望」

越谷市 江崎 広軌

令和2年、自分にとって試練の年でした。不整脈の手術、上司の逝去と今まで安穏と生活して来られたことのつけの如く次々と良くない出来事に見舞われました。もう今年も残すところ数ヶ月、このまま無事に終わってくれと祈るような思いで過ごしていた11月の下旬に微熱が続き風邪薬を服用しても改善がみられない、コロナウイルス感染を疑いPCR検査を受けにかけかかりつけ医に向かう途上で自動車による衝突事故を起こしてしまい今になって思うとこの時既にウイルスに脳を侵されていました。

翌日の明け方、トイレに行こうと階段を降りたところ昏倒、足を踏み外し、転落してしまい救急車で搬送され、診断の結果は外傷性クモ膜下出血。治療を受けたのですが容態は悪化してしまい呼吸困難に肺炎と腸閉塞と足に血栓を併発しており、意識が戻った時には事情も飲み込めず12月中旬ベッドの上で人工呼吸器に繋がれ点滴と心電図を取り付けられた状態で覚醒しました。入院のきっかけは外傷性クモ膜下出血でしたが、検査の結果ウイルス性脳炎という診断結果でした。

入院開始から点滴投薬を繰り返し、2ヶ月になろうかという時期で急性期病院での治療が終了し、1月にリハビリテーション天草病院に社会復帰を願って転院して来ましたが、当初は筋力低下から立つこともままならず起立性低血圧という状態もリハビリの阻害要因であり上体を起こすことや立位となると直ぐに血圧が下がりリハビリどころではありませんでしたが、リハビリスタッフの根気強い治療により早い段階で克服することができました。歩行の方も立位を繰り返すことから始め

て、筋肉のトレーニングやストレッチで体幹のアップをはかり安定して立位を維持できるようになりました。次の段階で歩行器での歩行で筋力アップを行い、並行してロフトランド杖や一本杖での歩行練習も行い筋力アップとバランス感覚を養う訓練で、数ヶ月前はベッドから動けない状態が単独歩行も夢ではないような状態にまで近づけて頂いたことは感謝に尽きません。

人を救う医療行為ということに真摯に向き合い患者さん一人一人のため退院後の生活を親身になって考えてくださるバックアップ体制。レベルの高い治療を提供できる職員の皆さん全てに心よりありがとうございます。

(投稿日 令和3年6月14日)

感謝の声 (投書箱より)

長い間お世話になりました。看護師さんやリハビリの皆さんの家庭的な雰囲気の中で過ごさせて頂き、物を作ったり散歩の時には童心に帰って若い時の話などさせて頂いたり楽しかったです。まだ、入院していた様な気がしておりますが看護師さんやリハビリの方、スタッフの皆さんの姿を見ると自分のこれからの人生を何か人様のためにお役をさせて頂こう退院後は頑張ろうと思っております。また、お世話になる時があるかと思いますがその時は宜しくお願い致します。皆様どうもありがとうございました。(A病棟 入院患者様より)



年度別退院患者集計

		2018年度		2019年度		2020年度		
退院した患者		698		709		743		人
性別	男性	371	53.2%	381	53.7%	404	54.4%	人
	女性	327	46.8%	328	46.3%	339	45.6%	人
入院時年齢	91歳以上	23	3.3%	24	3.4%	22	3.0%	人
	81～90歳	173	24.8%	187	26.4%	190	25.6%	人
	71～80歳	220	31.5%	234	33.0%	261	35.1%	人
	61～70歳	128	18.3%	112	15.8%	124	16.7%	人
	51～60歳	79	11.3%	72	10.2%	73	9.8%	人
	41～50歳	50	7.2%	43	6.1%	49	6.6%	人
	31～40歳	14	2.0%	18	2.5%	16	2.2%	人
	0～30歳	11	1.6%	19	2.7%	8	1.1%	人
	平均	70.6		70.9		71.5		歳
入院経路	急性期医療機関	695	99.6%	707	99.7%	738	99.3%	人
	老健	0	0.0%	1	0.1%	1	0.1%	人
	外来	3	0.4%	1	0.1%	4	0.5%	人
相談～入院	31日～	49	7.0%	35	4.9%	35	4.7%	人
	26～30日	26	3.7%	57	8.0%	42	5.7%	人
	21～25日	51	7.3%	83	11.7%	46	6.2%	人
	16～20日	65	9.3%	106	15.0%	88	11.8%	人
	11～15日	144	20.6%	176	24.8%	146	19.7%	人
	6～10日	272	39.0%	186	26.2%	273	36.7%	人
	1～5日	91	13.0%	66	9.3%	113	15.2%	人
	平均	13.0		15.0		12.7		日
発症～入院	61日～	7	1.0%	6	0.8%	23	3.1%	人
	51～60日	91	13.0%	102	14.4%	78	10.5%	人
	41～50日	108	15.5%	114	16.1%	88	11.8%	人
	31～40日	127	18.2%	178	25.1%	140	18.8%	人
	21～30日	201	28.8%	193	27.2%	226	30.4%	人
	11～20日	152	21.8%	113	15.9%	180	24.2%	人
	1～10日	12	1.7%	3	0.4%	8	1.1%	人
		平均	32.4		34.3		31.7	
入院期間	180日超	1	0.1%	0	0.0%	1	0.1%	人
	151～180日	60	8.6%	80	11.3%	75	10.1%	人
	121～150日	120	17.2%	113	15.9%	111	14.9%	人
	91～120日	109	15.6%	140	19.7%	133	17.9%	人
	61～90日	185	26.5%	173	24.4%	191	25.7%	人
	31～60日	160	22.9%	141	19.9%	156	21.0%	人
	30日以下	63	9.0%	62	8.7%	76	10.2%	人
		平均	87.3		90.3		87.0	

		2018年度		2019年度		2020年度		
疾患別リハ料	脳血管リハ	559	80.1%	562	79.3%	584	78.6%	人
	運動器リハ	135	19.3%	140	19.7%	148	19.9%	人
	廃用症候群リハ	2	0.3%	7	1.0%	7	0.9%	人
	リハ対象外	2	0.3%	0	0.0%	4	0.5%	人
疾患内訳	脳 梗 塞	284	40.7%	272	38.4%	292	39.3%	人
	脳 出 血	150	21.5%	151	21.3%	151	20.3%	人
	クモ膜下出血	45	6.4%	47	6.6%	49	6.6%	人
	他の神経疾患	69	9.9%	61	8.6%	61	8.2%	人
	廃用症候群	2	0.3%	8	1.1%	7	0.9%	人
	急性増悪	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	人
	骨 折	114	16.3%	127	17.9%	124	16.7%	人
	骨折以外の運動器疾患	31	4.4%	43	6.1%	55	7.4%	人
	リハ対象外の疾患	2	0.3%	0	0.0%	4	0.5%	人
障害内訳	右片麻痺	198	28.4%	196	27.6%	203	27.3%	人
	左片麻痺	175	25.1%	163	23.0%	207	27.8%	人
	四肢の麻痺	32	4.6%	43	6.1%	42	5.7%	人
	両下肢麻痺	8	1.1%	14	2.0%	17	2.3%	人
	運動失調	37	5.3%	37	5.2%	28	3.8%	人
	筋力低下	2	0.3%	9	1.3%	7	0.9%	人
	失 語 症	161	23.1%	171	24.1%	173	23.3%	人
	高次脳機能障害	386	55.3%	438	61.8%	504	67.8%	人
	構音障害	266	38.1%	285	40.2%	316	42.5%	人
嚥下障害	242	34.7%	372	52.5%	398	53.6%	人	
患者居住地	越谷市内	234	33.5%	262	37.0%	285	38.4%	人
	春日部市内	190	27.2%	187	26.4%	205	27.6%	人
	草加市内	28	4.0%	18	2.5%	20	2.7%	人
	その他東部地域	37	5.3%	37	5.2%	53	7.1%	人
	その他県内	115	16.5%	112	15.8%	96	12.9%	人
	県 外	94	13.5%	93	13.1%	84	11.3%	人
退院先	自 宅	518	74.2%	487	68.7%	521	70.1%	人
	居宅施設	38	5.4%	37	5.2%	58	7.8%	人
	ショートステイ	4	0.6%	5	0.7%	9	1.2%	人
	老人保健施設	79	11.3%	101	14.2%	99	13.3%	人
	療養病院等	21	3.0%	32	4.5%	23	3.1%	人
	急性期転院	30	4.3%	39	5.5%	29	3.9%	人
	死亡退院	5	0.7%	8	1.1%	4	0.5%	人
診療実績等	重症患者率	44.8		43.8		44.9		%
	重症患者改善率	72.0		66.4		71.5		%
	在宅復帰率	84.2		79.1		82.8		%
	経口摂取回復率	52		55.9		54.6		%
	FIM改善度	30.8		28.6		29.7		
	リハビリ実績指数	52.1		47.4		53.8		

編 集 手 帳

✦新型コロナウイルスの地球規模での爆発的な感染拡大や中国が軍拡に積極的に取り組み近隣諸国を威嚇したり、国内の移民族を迫害したり、香港での弾圧や台湾には戦争をも辞さない態度を示したり等々に端を発した米中対立で、この1年間は不透明さと不安に満ちた日々が続いています。今号では、我が国のコロナ対応について私見を述べさせていただきます。

✦世界の中であって我が国のコロナ対応は総じて合格点に達していると思います。先進各国に比べて、人口当たりの感染者数が少ない、重症例が少ないし死亡例も少ないと言えるからです。これは、一部「路上飲み」などの不心得者がいることは確かですが、大部分の国民が感染防御をしっかり実行しているからです。また、ワクチン接種は出遅れや「品切れ」があったとはいうものの今後順調に進み、10月末～11月中には接種を希望する方々への作

業は完了すると見込まれています。

✦これまで幾度となく「医療逼迫・医療崩壊」が危惧されましたが、これは、医療機関、特に病床の機能分化と連携を中心的課題として取り組むことによって解決に向かうと思います。まだ我が国には「一病院完結型」の医療提供体制が数多く残っております。これを「高度急性期病院」、「急性期病院」、「回復期病院」、「慢性期病院」に機能別に分けて、「地域完結型医療提供体制」、つまり、一病院ではなく地域を単位に「病院機能分化と連携」を推進することによって「医療逼迫」に陥ることなしにスムーズな患者の流れを確立しなければならないと考えます。我が国の人口当たりの病床数は世界一です。

✦再び明るい心豊かな日常生活が戻ってくることは確実です。もう暫くの我慢です。無観客とはいえ東京オリンピックが来週から始まります。日本人の「魂」を各分野で発揮しようではありませんか。

(理事長 天草大陸)

当法人施設が取得する第三者評価認証

患者さんが病院を評価するには、その病院自身の「自己紹介」も参考になりますが、第三者の評価も重要です。当院では「病院機能評価機構」と「ISO」の認証を取得しています。

なお、併設の老人保健施設でも「ISO」の認定を受けています。



表紙のことば

この作品は、感染対策のため少人数での患者様と作成した「切り絵」になります。細かな作業で苦勞する場面もありましたが、患者様の一生懸命な姿や笑顔を見ることができてとても有意義な時間に感じました。(B病棟スタッフより)